

# ASAHI MACHI



広報 あさひまち

先生の目を見て  
「ありがとう」  
受け取る教科書、始まる小学校生活

2014  
4

平成 26 年度における

町政運営の重点テーマ

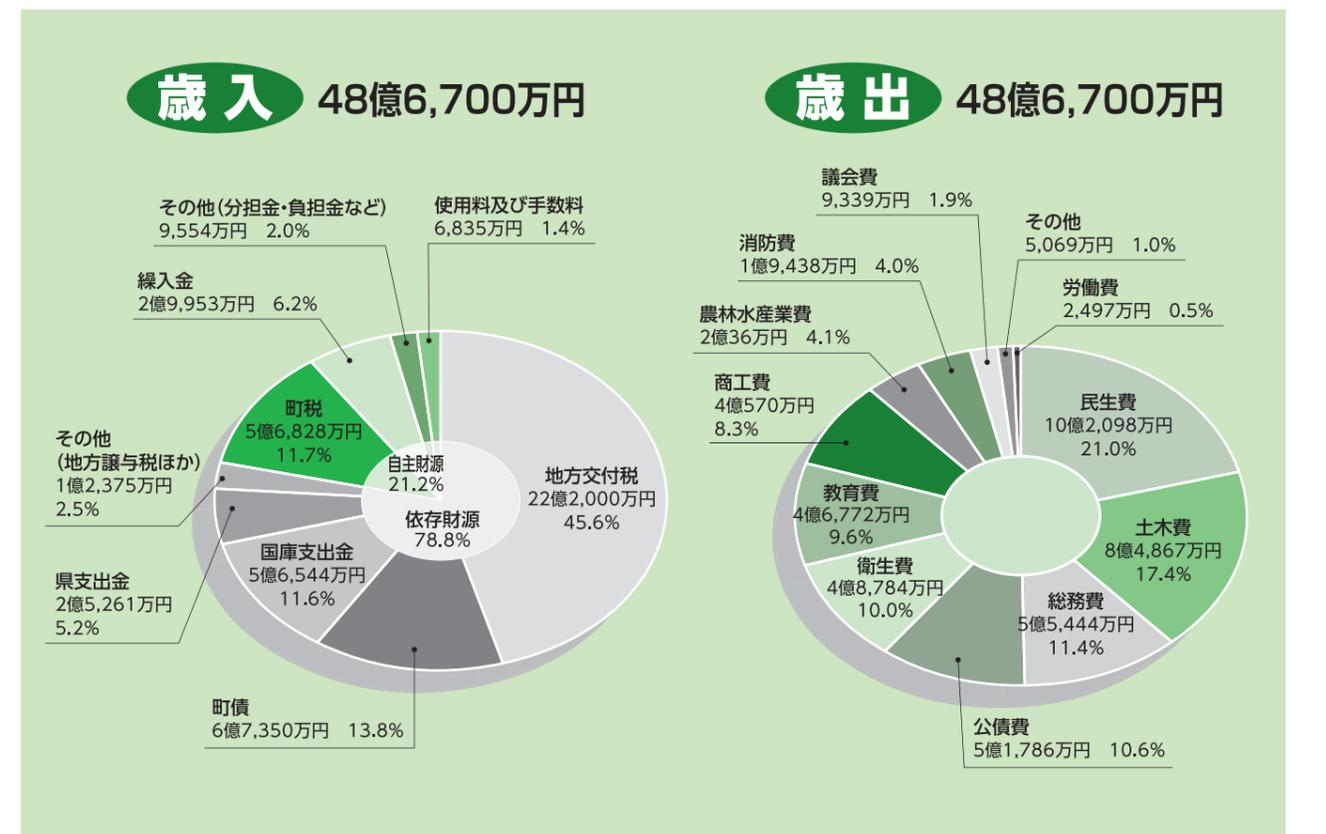
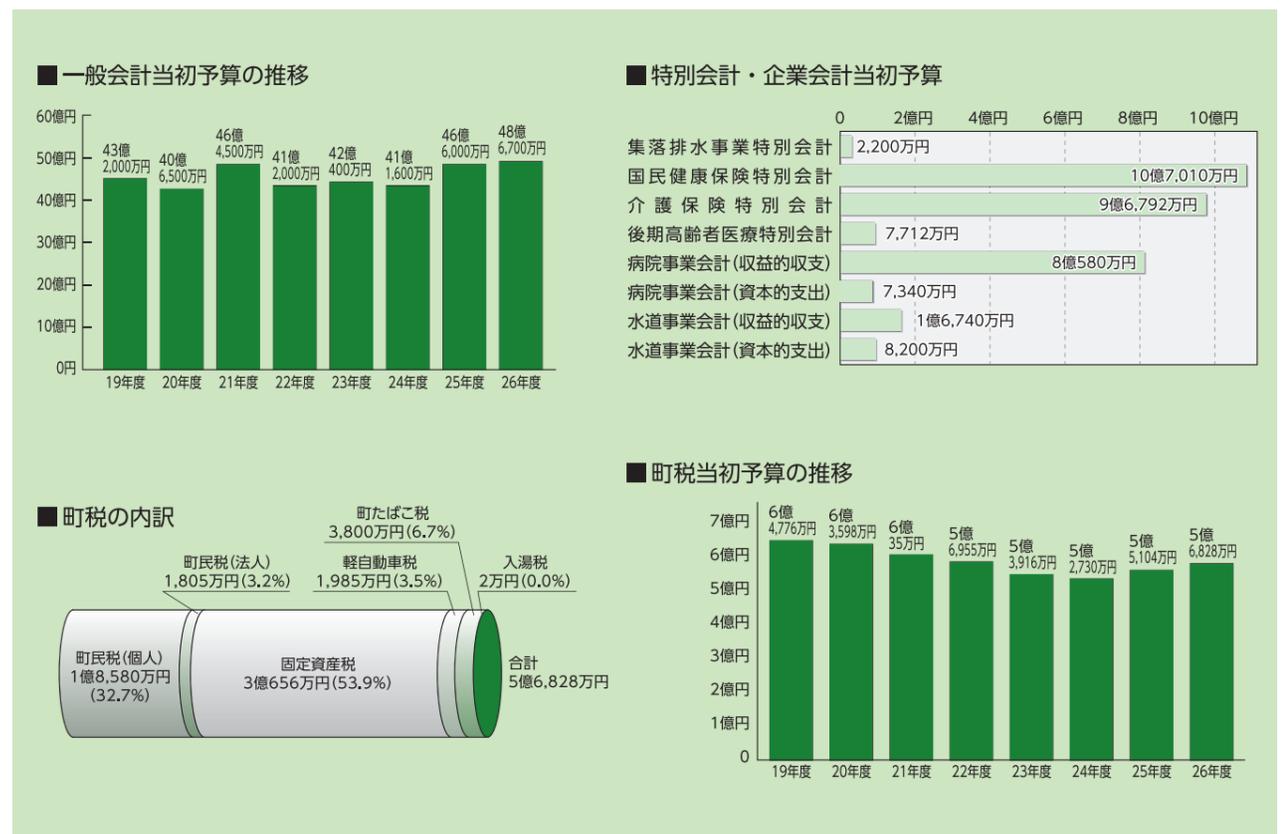
**強みを活かした産業力の推進により、**  
子育て世代が安心できる定住環境と教育環境を

**さらなる交流とにぎわいを創出する。**  
整え、自信と誇りにあふれた活力ある町をつくる。

平成 26 年度の当初予算が決まりました。一般会計の総額は 48 億 6700 万円で、昨年度に比べると 2 億 700 万円（4.4%）増の積極編成となっています。昨年度着手した複数の大型建設事業を着実に推進するためです。

今年度は、「第 5 次朝日町総合発展計画（平成 20 年度～ 29 年度）」の後期 2 年目。そして町制施行 60 周年という節目の年にあたります。限られた予算の中でも創意と工夫を心がけ、発展計画で掲げた「いつの時代も自信と誇りを持ち、住みたい、ずっと住み続けたい魅力あるまち」をつくりまします。

**予算**  
**平成 26 年度一般会計当初予算**  
**48 億 6700 万円**



継続



**和**合地区都市再生整備計画事業 2億3,974万円  
▶地域交流センターの本体及び関連工事

和合地域の振興を目的とする「地域交流センター」を建設し、周辺の道路を整備（国の交付金を活用）。今年度は建物の本体工事を行います。  
(担当：建設水道課 建設係)

継続



**町**営住宅建設事業 1億6,258万円  
▶さゆり保育園跡地に6世帯分の集合住宅を整備

25年度予算で現在建設中の町営住宅（さゆり保育園跡地に8世帯分、大谷東住宅団地内に3世帯分）に加え、今年度はさゆり保育園跡地にさらに6世帯分を整備します。  
(担当：建設水道課 建設係)

継続



**観**光施設整備振興事業 2億4,221万円  
▶総合交流拠点施設の敷地造成と本体工事

「交流・観光」による経済の活性化を進めるため、「総合交流拠点施設」を整備します。今年度は敷地造成と建物の本体工事等を実施。オープンは来年秋を予定しています。  
(担当：総合産業課 商工観光係)

新規



**町**制施行 60 周年記念事業 600万円  
▶未来への希望に満ちた、記憶に残る事業を実施

昭和 29 年 11 月 1 日、宮宿町、西五百川村、そして大谷村が合併して誕生した当町。町制施行 60 周年に当たる今年度はその歩みを振り返り、記念行事等で節目を祝います。  
(担当：政策推進課 定住・戦略推進係)

今年度の主要施策は昨年からの継続事業が中心です。総合交流拠点施設、和合地域交流センター、町営住宅など複数の大型建設事業を着実に推進します。主な新規事業は、町制施行 60 周年記念事業やドクターヘリ受け入れ態勢整備事業、高齢者住宅調査等委託事業など。一方、既存事業でも結婚支援事業に「仲人成婚奨励金」を新設し、地域情報発信力強化事業では新たに「町ブランド戦略」を推進します。このほか農業の担い手確保面では助成金の額を上積みするなど様々な工夫を加え、各種制度を拡充しています。

新規・継続・拡充  
事業を着実に推進

# 主要施策

拡充



**農**業後継者・新規就農者  
支援対策事業 3,462万円

農業の担い手確保のため、研修制度や生活支援、就農条件の整備拡充など、就農しやすくなる総合的な支援体制を構築します。  
(担当：農林振興課 農政係)

新規



**ド**クターヘリ受け入れ態勢  
整備事業 1,119万円

救急医療の専門医及び看護師が同乗し救命医療を行うことができる「ドクターヘリ」の離着陸場（ランデブーポイント）として、専用ヘリポートを整備します。また、受け入れの際の支援態勢を整えます。  
(担当：健康福祉課 健康推進係)

新規



**高**齢者住宅調査等委託事業  
100万円

高齢になっても町内で安心して暮らせるよう、町は平成 28 年度に高齢者住宅の整備を予定しています。今年度は建物の様式等の調査検討を行います。  
(担当：健康福祉課 福祉係)

拡充



**地**域情報発信力強化事業  
1,441万円

桃色ウサビ（情報交流推進員）等を活用しながら町の良さや魅力を伝え、朝日町の認知度とイメージの向上を図ります。また、町全体の総合的なブランド化に向けた新事業に着手します。  
(担当：政策推進課 地域情報係)

拡充



**結**婚支援事業  
180万円

結婚を望む独身者に対する、出会いや結婚につながるサポートをさらに充実させます。今年度は「仲人成婚奨励金」制度を新たに設け、地域全体で婚活を後押しします。  
(担当：政策推進課 定住・戦略推進係)

拡充



**あ**さひ英語学習会事業  
32万円

社会のグローバル化が進展し、英語力の必要性が高まるなか、町では小中学生の英語力向上を目指し、昨年から「あさひ英語学習会」を開催しています。平成 26 年度は受講機会を拡大します。  
(担当：教育文化課 学校教育係)

(※小学校の英語の授業)



寄付採納報告

■ 油彩画 1点

大谷小学校の教育振興のため  
株式会社小野建設（山形市）  
代表取締役 小野和行 様（大谷六出身）より



「錦秋の大谷小」

作：遠藤博政氏（山形市）、サイズ：幅120cm、高さ60cm

■ 金員 13万円

町づくり寄付金として  
日東ベスト株式会社（寒河江市）様より

■ 金員 240万7,254円

町福祉の推進向上のため  
「朝日町手をつなぐ育成会」様より

※町内に障がい児向けに授産施設を建設しようと、昭和61年に積み立てを開始した基金。その後気運の縮小と社会情勢の変化を受け、積み立ては平成12年に中止していた。町は福祉基金として積み立て、今後、類似施設建設等の気運が高まった際はこの基金を利用することとする。

■ 金員 10万円

ふるさと納税寄付金として  
千葉県八街市 遠藤みえこ様より

このほか、町づくり寄付金として、2人から総額2万5000円の寄付を、ふるさと納税として125人から総額126万7000円の寄付をお寄せいただいています。

※ふるさと納税は昨年11月16日から今年2月14日まで受け付けした分の集計です。寄付者の氏名は、金額が2万円以上で氏名公表を了承していただいた方への紹介とさせていただきます。ご了承ください。

「人として大切なものごとを伝えたい…」

「ふるさとの大地～朝日町と能中」を出版

熊谷信雄さん（東京都足立区／能中出身）が来町

本300冊と100万円をいただく



当町能中出身で東京都足立区在住の熊谷信雄さんがこのほど、「ふるさとの大地～朝日町と能中～」を出版し、4月8日、鈴木町長のもとを訪れました。

昭和8年生まれのお熊谷さんは同27年に上京。昼間働きながら横浜市内の定時制高校（夜間）を卒業し、その後会社を設立。不動産業やホテル業で成功しました。今回出版した本は、上京するまでの約20年間やふるさとへの想いを綴ったもの。全143ページ、8章立ての構成で、昭和初期の食糧難や

樺平の開田事業のほか、一本松公園やヒメサユリ、そして能中集落なども記述しています。

「激動の昭和初期、毎日が波乱万丈だったふるさとでの暮らしを通じて、昔から変わらない、大切なものごとを伝えたい」——。出版のきっかけをこう話す熊谷さん。発行部数1200部のうち300部は町内各種施設と町職員向けに寄贈。残る900部のうち約600部は三中4区（西船渡、八ツ沼、能中、高田）の全世帯のほか、町内の

知人、縁故者に贈っています。

「昔に比べて生活水準が上がった昨今は一見幸せそうですが、一昔前では考えられないような事件や不正も相次ぎ、日本の礎が揺らいでいる気がします。温かさやぬくもりといった、現代人が見失いつつあるものをこの本から感じていただければ幸いです」と語る熊谷さん。この日は本以外にもふるさと納税として100万円を町に寄付。ふるさとへの深い愛情に対し、鈴木町長が感謝とお礼の言葉を述べました。

町政報告

議会

町議会3月定例会

3月5日から13日まで9日間の日程で、町議会3月定例会が開催されました。町政報告等の中から主な内容をお知らせいたします。



待ち遠しい桜の季節

■平成25年中の交通事故・違反等発生件数

交通事故発生件数は年間で18件で前年比7件の減。負傷者数は22人で、前年比8人の減。また飲酒運転検挙者数は3人で、前年比4件の減。いずれも大きく減少している。

■あさひ保育園の入園予定者

26年は当初で153人（0歳児～5歳児合計）の予定。（昨年度と比較して18人の減少）

■平成25年度のりんご輸出事業

昨年より8トン多い24トンを台湾、タイ、マレーシア、フィ



試食を提供するりんご生産者

リピンへりんごトラ・フランスを輸出。1月には町長と生産者が台湾の高級百貨店で試食販売を行った。更なるブランド化に向け、出荷数量の増加をめざす。

■新企画で例年以上にぎわう朝日自然観

小学生以下のリフト料金が無料となる「スキーこどもの日」を隔週日曜日から毎週土日・祝

日に、女性のリフト1日券が500円となる「レディースデー」も隔週土曜日から毎週土曜日に拡大した。

新企画で誘客に努めたところ、親子連れや若い世代から好評を得、例年以上にぎわった。2月28日時点では、売り上げが前年度比で約15%増えている。

■平成25年度の積雪状況

12月12日からの降雪が根雪となったが、その後は比較的穏やかな冬となった。最大積雪深を記録したのは、宮宿観測所が2月16日で83センチ（対前年比マイナス45センチ）、立木観測所が3月12日で150センチ（対前年比マイナス35センチ）だった。※町は平成24年度まで3年連続

で豪雪対策本部を設置。設置なしは4年ぶりとなる。

■町内小中学校の卒業生、新入生

25年度卒業生は小学校が60人で、中学校が75人。それぞれ慣れ親しんだ学び舎を巣立つ。26年度の新入生は小学生が53人（宮宿小31人、西五百川小9人、大谷小13人）、中学生が60人。

■町立病院の外科常勤医が不在に

1月から外科常勤医が不在になったことに伴い、外科外来や北部診療所の診療体制をやむなく変更、または縮小している。医師確保は病院運営の根幹であり最重要課題。2月17日には町長と院長が山大を訪ね常勤医の派遣について陳情している。



調理された備蓄食

■災害を想定し、備蓄食品を使った給食提供を訓練

町立病院では2月17日から21日までの期間、備蓄食品を使って給食を提供する研修会を実施した。ライフラインの停止を想定したもので、保管場所の確認や調理、盛り付け方法を学ぶなど、災害時にも迅速に対応できるように再確認した。

## 盲特別養護老人ホーム「和合荘」が開所

■社会福祉法人朝日敬慎会 ☎85-1672 健康福祉課 福祉係 ☎67-2132

社会福祉法人「朝日敬慎会（吉田孝志理事長）」が旧和合小跡地に建設を進めていた盲特別養護老人ホーム「和合荘」が3月下旬に完成し、4月1日開所しました。

施設は鉄筋コンクリート造の2階建てで、延べ床面積は3096㎡。敷地は町が無償で貸し付けています。総事業費は約8億円。定員は60人で全室個室。内訳は長期入所者50人、短期入所者10人を予



3月下旬に完成し、4月1日に開所した「和合荘」

目（吉田孝志理事長）が旧和合小跡地に建設を進めていた盲特別養護老人ホーム「和合荘」が3月下旬に完成し、4月1日開所しました。

施設は鉄筋コンクリート造の2階建てで、延べ床面積は3096㎡。敷地は町が無償で貸し付けています。総事業費は約8億円。定員は60人で全室個室。内訳は長期入所者50人、短期入所者10人を予

目（吉田孝志理事長）が旧和合小跡地に建設を進めていた盲特別養護老人ホーム「和合荘」が3月下旬に完成し、4月1日開所しました。

施設は鉄筋コンクリート造の2階建てで、延べ床面積は3096㎡。敷地は町が無償で貸し付けています。総事業費は約8億円。定員は60人で全室個室。内訳は長期入所者50人、短期入所者10人を予

目（吉田孝志理事長）が旧和合小跡地に建設を進めていた盲特別養護老人ホーム「和合荘」が3月下旬に完成し、4月1日開所しました。

施設は鉄筋コンクリート造の2階建てで、延べ床面積は3096㎡。敷地は町が無償で貸し付けています。総事業費は約8億円。定員は60人で全室個室。内訳は長期入所者50人、短期入所者10人を予

目（吉田孝志理事長）が旧和合小跡地に建設を進めていた盲特別養護老人ホーム「和合荘」が3月下旬に完成し、4月1日開所しました。

施設は鉄筋コンクリート造の2階建てで、延べ床面積は3096㎡。敷地は町が無償で貸し付けています。総事業費は約8億円。定員は60人で全室個室。内訳は長期入所者50人、短期入所者10人を予



1. 個室の広さは約7畳で、家具等の持ち込みも可能



2. 食事や談話を楽しむ共同生活スペース。3. 視覚障がい者ユニットにある音声案内システム。特定の周波数に合わせたラジオを近づけると「ここは〇〇さんの部屋です」と位置情報を知らせてくれる

### 運営母体の「朝日敬慎会」とは？

この施設を整備、運営するため、昨年4月に設立（認可）された法人で、吉田孝志理事長（76歳＝写真）は宮城県名取市在住。宮城県内で唯一の盲養護老人ホームを含む40カ所の福祉施設を手掛ける社会福祉法人「宮城福祉会」の理事も務める。



役員は吉田理事長を含めて8人で、そのうち6人は朝日町民。大友理事も宮城県内の社会福祉法人で役員を務めている。

#### 朝日敬慎会役員

職種	氏名
理事長	吉田孝志（名取市）
理事	大友宗一（岩沼市）
理事	後藤治三郎（宿）
理事	児珠孝童（立木）
理事	阿部憲明（真中）
理事	阿部則雄（松程）
監事	安藤 實（元町）
監事	阿部正春（夏草）

## 国道287号の白鷹・朝日町境付近が全面通行止め 地滑りで隆起、亀裂が発生

■建設水道課 建設係 ☎67-2115

3月31日早朝、国道287号白鷹町大瀬地内（白鷹・朝日町境付近）で路面に隆起や亀裂が見つかり、道路を管理する県は同日から全面通行止めを行っています。

場所は白鷹町大瀬と当町今平を結ぶ大平橋入口から約200m南側。原因は雪解け水などで地盤がゆるみ、東側の斜面で地滑りが起きたためとみられています。県は専門家による調査を行っています。が、今後最短でも、調査・設計だけで2〜3ヵ月かかると見込まれています。



隆起した国道。4月5日現在、高さは約25cm

現在、総重量4t以下の車両は、最上川対岸の主要地方道長井大江線で迂回できるものの、狭い道幅のため片側交互通行となっており、通常よりも約15分程度余計に時間がかかっています。また、4tを超える車両は国道348号等へ大きな迂回が必要で、白鷹・朝日両町の国道287号を通る車両は著しく減少しています。

これにより、すでに両町の商業者には大きな影響が出ています。迂回路から離れた白鷹町の「あゆ茶屋」は特に深刻といい、「売り上げは例年の2〜3割程度」と同町



関係者から説明を受ける吉村知事

の関係者。当町の国道沿いの飲食店も「これから春の行楽シーズンなのに…。影響は避けられないだろう」と今後の客足鈍化を心配しています。

こうした事態を受け、4月5日には吉村知事が現場を視察。「幹線道路だけに観光面への影響が懸念される。国と連携してしっかりと調査し対応したい」とコメントを発表しています。一方、9日には鈴木町長が佐藤誠七白鷹町長と共に知事を訪問し、窮状と今後予想される影響を報告。復旧のための緊急要望書を提出しました。

### 国道287号の豪雨崩落箇所は今年7月 県道左沢浮島線の大沼地内は今年秋頃 復旧予定



国道287号で、昨年7月の豪雨により崩落した白鷹町大瀬地内の工事箇所（＝写真）は現在片側交互通行となっているものの、今年7月に全面復旧の見込みです。

一方今年2月に崩落した一般県道左沢浮島線の大沼地内

は依然全面通行止めとなっています。こちらは、3月いっぱい現地調査が完了し、現在は復旧に向けた設計が行われています。復旧は今年秋の見込みです。

いずれも、一日も早い復旧が待たれるところです。

## 七ヶ浜町に佐竹佑斗主事を派遣

■総務課 庶務係 ☎67-2111



佐竹佑斗主事

町は今年度、友好の町の宮城県七ヶ浜町の復興支援を目的に、同町に佐竹佑斗主事を派遣しました。期間は4月1日から1年間。

七ヶ浜町には今年度、全国の自治体から25人が派遣され、震災復興関連の業務にあたっています。佐竹

主事もこの一人として「復興推進課」に配属され、現在は被災者向けに町が整備した住宅団地への移転業務を担当しています。

「七ヶ浜で生まれた人が七ヶ浜で暮らせるようにすることが復興の第一歩。一年間よろしくお願ひする」――3月25日の七ヶ浜町訪問では、渡邊善夫町長からこうした言葉をいただいた佐竹主事。「朝日町の代表として身が引き締まる思い。復興支援業務はもちろん、両町の交流をさらに促進できるよう貢献したい」と決意を述べていました。

## 災害時の生活物資供給に関し、JAと協定

■総務課 防災係 ☎67-2111



町とJAさがえ西村山は3月14日、「災害時における生活物資の供給」に関し、協定を結びました。

町内で大きな地震や風水害などが発生した場合、JAが町の要請に応じ、避難所などに飲料水や食料品などの生活物資を優先的に供給するもの。役場町長室で行われた締結式には川口幸男副町長とJAの古沢明組合長が出席。協定書に記名押印した川口副町長は「東日本大震災や豪雨など災害が頻発する中、今回の協定は大変心強い。ありがたく思う」とあいさつしました。

## ～より見やすく、探しやすく～ 町公式ホームページを7年ぶりにリニューアル

■政策推進課 地域情報係 ☎67-2112



大きな一枚写真の全体トップページ。「くらしの窓」観光の窓」で、求める情報に誘導



くらしの窓のトップページ

町は4月1日、公式ホームページ（以下「HP」）を7年ぶりにリニューアルしました。新HPの主な特徴は次の通りです。

▼トップページの「くらしの窓」と「観光の窓」で目的に合わせたページに誘導

町公式HPで探す情報は、大きく2種類に分けることができます。「生活・行政情報」もしくは「観光情報」です。そこで今回はトップページに「くらしの窓」と「観光の窓」を設けました。前者に行政情報を集約したのに対し、後者は町観光協会HPにつながるように設定。目的に合わせたページに誘

導しています。

▼情報を探しやすい

「知りたい情報になかなかたどり着けない」。旧HPに寄せられていた苦情を改善し、ページごとの相互リンクを増やしています。少ないクリック回数で情報を探せるよう工夫しました。

も情報を検索しやすいよう各コーナーのアイコンを配置しました。

基本色はりんごをイメージした赤を継続しています。

▼見やすいレイアウトに

縦長で見にくかった旧HPの反省を踏まえ、「くらしの窓」コーナーのレイアウトは、横スペースを活用しています。小さな画面の端末で

▼ウサビコーナー、まちな写真館は継続。今後は新コーナーも

旧HPで人気だった桃色ウサビコーナーや「まちな写真館」コーナーは継続。今後は町民誰もが使用できる写真素材を集めた「まちな素材館」や、納付手続きまで可能な「ふるさと納税」関連ページも新設します。

※現在「桃色ウサビの朝日町探検」は新シリーズ企画の準備のため休止しています。再開は4月下旬を予定。お楽しみに。

## 地域の安心を担う 平成26年度町消防団体制

■総務課 防災係 ☎67-2111

団 長	浅岡清二郎 (西町)
副団長	阿部富士男 (八ッ沼)
本部分団長	長岡 秀典 (栄町)
〃	長岡 秀昭 (前田沢)
〃	長岡 啓一 (大谷一)
〃	安藤 克幸 (松原)
〃	安孫子宏栄 (前田沢)
〃	鈴木 新一 (常盤)
〃	阿部 勝彦 (大町)
〃	村山 一史 (宇津野)
同副分団長	阿部 晃典 (新宿)
第一分団長	佐藤 貴志 (沼向)
同副分団長	布施 秀樹 (栄町)
一の二部長	阿部 健 (四ノ沢)
一の三部長	熊谷 忍 (小原)
一の四部長	伊藤 壮志 (送橋)
一の五部長	細谷 広行 (宇津野)
第二分団長	安藤 利行 (常盤)
同副分団長	長岡 佳之 (太郎二)
二の二部長	小川 悟 (太郎二)
二の三部長	佐藤 義則 (松程)
二の四部長	安藤 剛志 (西船渡)
第三分団長	長岡 昭博 (常盤)
同副分団長	遠藤 直裕 (舟渡)
三の二部長	志藤 英俊 (川通)
三の三部長	池田 秀和 (大谷五)
三の四部長	小林 晃 (大沼)
三の五部長	遠藤 隆弘 (真中)
三の六部長	志藤 清隆 (川通)
役場消防部長	熊谷 忍 (健康福祉課)

### ご存知ですか？ 高齢者運転免許証 自主返納制度

町は運転に不安を感じている高齢者の交通事故を防ごうと、昨年度から特典のついた「高齢者運転免許証自主返納制度」を導入しています。25年度は15件の申請がありました。

特典は運転免許証を返納した65歳以上の町民を対象に、写真付きの住民基本台帳カードと公共交通（※）の回数乗車券2万円分を進呈するものです。前者は運転免許証に代わる身分証明証として、後者は公共交通利用の際の負担軽減を目的に交付しています。

#### ▼申請方法

返納する本人が県総合交通安全センター（山形市）または寒河江警察署で自主返納の手続きを済ませたうえで、役場総務課へお出でください。

#### ▼持ち物

返納手続きで交付される「申請による運転免許証の取消通知書」及び印鑑。両特典は後日交付いたします。

#### ※回数乗車券の種類

①町アムンドタクシー回数券、②山形県タクシー共通乗車券、③山交バス普通乗車券のいずれか。

#### ▼問合せ

総務課防災係 ☎67-2111



3月13日、今井正仁さん(右)とともに町長室を訪問した佐竹さん(中央)。JAさがえ西村山朝日町水稻部会の現部会長(今井さん)と前部会長(佐竹さん)が快挙を成し遂げた。

## 2/28 はえぬき部門で町生産者が2年連続の快挙 佐竹光喜さんが最高賞

「山形の米日本一推進運動食味コンクール」の審査会が2月28日に行われ、佐竹光喜さん(松程)がはえぬき部門1位の県知事賞を受賞しました。県内各地のコンクール等で優秀な評価を受けたはえぬき10点、つや姫17点が出品され、成分測定や食味官能審査で各賞が決定。本コンクールでは、昨年も今井正仁さん(新宿)が同部門で本部長賞(2位相当)を受賞しており、町のコメ生産者としては2年連続の快挙となります。



## 3/19 文章、写真、レイアウト…。編集のコツを学ぶ 公民館報づくり研修会

町内の自治公民館報編集者を対象にした公民館報づくり研修会が3月19日創遊館で行われました。区内の情報共有と区外への情報発信を担う公民館報。昨年度は55館のうち15館が発行しています。この日は広報あさひまちの編集を担当する政策推進課の佐久間淳主任が講師を務め、12人が参加。参加者は広報誌の具体例を通して、「文章」「写真」「レイアウト」など、編集のコツを学びました。



## 3/20 「未来に伝える山形の宝」制度 町エコミュージアム協会に登録証

地域の文化財を守り、活用する団体に県が補助する標記制度の登録団体が決まり、3月20日、NPO法人町エコミュージアム協会の長岡信悦理事長に吉村知事から登録証が交付されました。今年度新設された本制度は、複数の文化財を共通テーマで結び付けた、保存・活用の取り組みを支援するもの。「最上川・五百川郷の宝物がたり」と銘打った同協会の活動は「重点テーマ」に選ばれ、登録10団体の中でも中核に位置づけられています。



## 3/27 本格クラシックから幼児向けの楽曲も 山響親子でたのしいオーケストラ

「親子で楽しいオーケストラ」と銘打った山形交響楽団の演奏会が3月27日創遊館で開かれました。この日は本格クラシックから「パンダうさぎコアラ」「手のひらを太陽に」など幼児向けの楽曲まで、幅広いジャンルのプログラム。羽陽学園短期大学(天童市)の学生によるパフォーマンスもあり、あさひ保育園の全園児のほか幼児、小学生の親子連れ約300人がオーケストラによる本格演奏を楽しみました。

ホームページに写真



▲豆菓子のプレゼントに喜ぶ新入生の準備には約20人の会員が集まり、伝統文化への想いを込めて調理した



「朝日町は第一希望でした」鈴木町長に語る堀口さん

### ▶農村の暮らしを体験してみたかった

「実家のある高浜町は福井県の西端、京都府との県境にある人口約11,000人の町。育った集落は典型的な漁村だったので、農村での生活を体験してみたかったんです。第一希望の朝日町に来ることができてとてもうれしく思います。地域の皆さんとともに、毎日の暮らしを楽しみたいと思います。趣味はスキーと卓球で、好きな食べ物は桃やサクランボといった果物。年間どうぞよろしくお願いいたします」

## 4/5 「ママで元気に、豆のように丸く優しく…」 新一年生に豆菓子のプレゼント

4月5日、食のボランティアである「朝日町食生活改善推進協議会(志藤一校長)」の委員が町内3小学校の入学式を訪れ、新入生に豆菓子(豆糖=砂糖ときな粉をまぶした炒り豆)をプレゼントしました。西五百川小旧三中分校や大谷小旧川通分校では昔、新入生の母親が子どもの入学の日に、こうした豆菓子を持たせる慣習がありました。「ママで元気に、そして豆のように丸く優しく育ちますように…」と、子どもの健やかな成長と幸せを願ったものです。

同協議会では今年、この慣習を復活させようと一念発起。3日に会員が集まり材料から調理すると、新入生53人分を一つ一つ心を込めて袋詰めしました。

食の伝統が途絶えつつある現代において、地域文化と食育の大切さを伝える貴重な取り組み。志藤会長は「ぜひ来年以降も継続していきたい」と話していました。

▶新入生にプレゼントされた豆菓子



## 4/10 「朝日町協力隊」として大沼区で地域活動等に従事 緑のふるさと協力隊員 堀口隆生さんが着任

NPO法人「地球緑化センター」が派遣する「緑のふるさと協力隊」として、4月10日堀口隆生さんが来町し、同日付で「朝日町協力隊」に着任しました。

福井県生まれの堀口さんはこの3月に京都市内の大学を卒業したの22歳。大学の専攻は地域振興で、在学中は京都府内の自治体でまちづくり活動にも携わりました。

委嘱状の交付式では鈴木町長に自ら握手を求め、地域づくりへの熱い想いを語る一方、「いろいろとおしえてもらっしやい」と覚えてたの方言で愛嬌も見せる堀口さん。来年4月末日まで約一年間大沼区に住み、地域の人たちと一緒に地域活動に取り組むほか、浮島をはじめとした地域の歴史文化を広く発信します。

なお、今年春まで本隊員として活動していた森太介さん(=写真)は今年度町内で郵便局員として働くこととなります。住まいは引き続き大船木で、地域活動にも参加していきます。







Births

すこやかに

区名	出生児氏名	性別	保護者名
栗木沢	佐藤直生	男	拓・あゆみ
緑町	杉政嵐	男	孝一・梨恵

Obituaries

やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
大町	阿部敏秋	直美
常盤	阿部あさ彥	健一
大谷四	渡邊仁藏	本人
松程	佐竹正一	正
中沢	五十嵐豊田	勉
水本	高橋熊次郎	秋彦
舟渡	遠藤憲一	志津子
松程	阿部義廣	静江
大町	花山たま	直樹
真中	武田登	信一
長沼	長岡巖	清志
宇津野	阿部惣壽	許
栗木沢	志藤寛治	晃一
大町	小國和夫	愛子

掲載を希望しない場合は  
届け出の際にお申し付けください

Population

人口と世帯数

●平成26年 3月31日 現在  
※( )内は先月比

人口 7,619人 (-51)  
男 3,787人 (-21)  
女 3,882人 (-30)

世帯数 2,474世帯 (-1)

----- 3月中の異動 -----

出生 2人 転入 11人  
死亡 13人 転出 51人  
(※外国人を含む)

お詫びと訂正

広報あさひまち 2014年3月号6ページ(女性農業委員の記事)で、農業委員の選任委員の定員を12人としていましたが、正しくは11人の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

表紙の写真



4月5日に行われた大谷小学校の入学式。式典終了後の教室では、13人の新入生に先生から教科書が手渡されました。「ありがとうございます」との言葉を添えて先生の目を見て受け取る新入生たち。希望に満ちた6年間でスタートしました。

モンテディオ山形キャラクター「ディーオ」の登場に歓喜

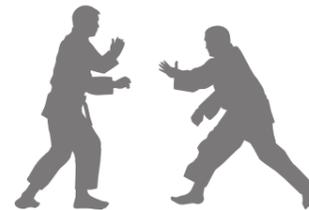
大谷小の入学式には今年、モンテディオ山形のマスコットキャラクター「ディーオ」が駆けつけ、子どもたちの新たな一歩を祝福しました。

新1年生が交通安全のためランドセルにつけるカバーは今年デザインが変わり、モンテディオ山形の「ディーオ」と「モンテス」が描かれたものになりました。今回の来訪はこれにちなんだクラブ側の好意によるもので、新入生はもちろん、在校生や保護者にも内緒にされていただけに、大きな歓声が上がりました。

「交通事故に気をつけて、毎日元気に登校してください」という関係者のあいさつのもと、ディーオからランドセルカバーを贈られたのは新1年生の代表の堀天時くん(大谷七)。やや照れながらうれしそうに受け取ったあと握手を交わし、交通安全とモンテディオ山形への末永い応援を誓いました。



1. 新しいランドセルカバー 2. ディーオからカバーを受け取る新入生の代表 3. ディーオと新入生13人の記念撮影



15歳～17歳の世界選手権派遣選手を选考

「全日本カデ柔道体重別選手権大会」に出場

佐藤綾子さん(朝日中3年/宿)



朝日中3年の佐藤綾子さんが全日本柔道連盟強化委員会の選抜により、「全日本カデ(※)柔道体重別選手権大会(今月13日/大阪府)」に出場しました。

この大会は同委員会から選抜された選手のみが出場するもので、その人数は各階級わずか8人のみ。佐藤さんは昨年、県中総体の柔道女子40kg級を2年生にして制覇し、東北大会(ベスト8)、全国大会に出場しており、今回の選抜はこうした実績が評価されました。

現在のカデ世代は2020年の東京オリンピックで主力選手になることが想定され、大会の結果次第では全日本カデ強化選手に指定されることも…。「他の選手はおそらく格上の高校生が大半で、試合では中学で禁止されている技も認められています。挑戦者として積極的に攻め、自分の流れを作っていきたいと思います」と意気込みを語っていた佐藤さん。結果は次号にて。

※カデ(cadet)とは…? 生徒、候補生、弟子、見習いという意味の英語。柔道では15歳から17歳までの年代をいう。

▶町柔道連盟 和田一則会長の話

佐藤選手の強さの秘訣は、教えに忠実で向上心があること。日常生活では規則や礼儀に正しく、やさしい性格ですが、試合では人が変わったように闘争心を見せます。得意技は内股。今大会の目的は「世界選手権への派遣選手選考」ただ一つで、ルールはすべて国際基準のもの。ドーピング検査もあります。中学生には慣れない技もあり厳しい戦いになるかもしれないが、上位に入賞し世界に羽ばたいてほしいですね。

「思いは伝わる。そして現実化する」

確信をもった「成長」は止まることを知らない

四月五日、県内トップを切った町内の小中学校の入学式が行われました。私は西五百川小学校の入学式に出席しましたが、新入生の初々しく明るく元気な様子にむしろ私の方が元気をもらったように感じました。また上級生の一生懸命な歓迎のあいさつや歌、そして群読。とても感動しました。子どもたち一人ひとりに心から拍手を送りたいと思います。そしてこの子どもたち一人ひとりの成長を心から願ってやみません。

さて、所はアメリカ。当地における興味深い研究の内容をお知らせしたいと思います。ある学校で十代の学生を平均点数が七十点になるように二つのクラスを作り、一方のクラスを受け持った先生に「このクラスはとんでもないクラスで平均点数が九十点を取るクラスです」と教えたそう

これは指導者と生徒の関係についての研究結果でありますが、世の中にはこのような事柄が至る所で起こっていると思います。知らず知らずの内に、指導者の思いは生徒に伝わり、「この子どもたちはできる」という確信を持った成長は、止まることなく進化を続けていくのです。

町長 鈴木 淡孝

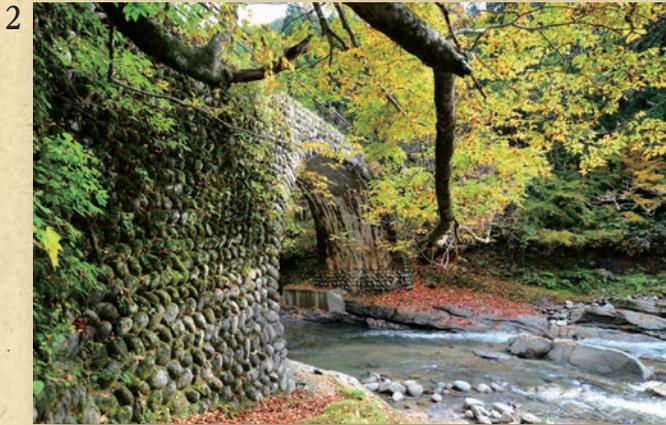
町長歳時記 (96)

# 入賞6作品決まる「とっておきの風景」写真コンテスト

広報あさひまち 第689号 平成26年4月16日発行

発行 山形県朝日町 編集 朝日町広報委員会  
山形県西村山郡朝日町大字宮宿1115 ☎0237(67)2111

http://www.town.asahi.yamagata.jp  
印刷 (株)若月印刷



白鷹・朝日・大江広域観光推進協議会では昨年度、3町のイベントや自然、景観をテーマにした写真コンテストを実施しました。2月の締め切りまでに46点の応募があり、このほどその審査結果がまとまりました。入選作品は次の通り。ご応募ありがとうございました。

番号	賞	タイトル	撮影地	氏名
1	最優秀賞	「かの地に幾年」	白鷹町つぶて石	飛塚 義孝 (山形市)
2	優秀賞	「晩秋の玉石橋」	朝日町立木～木川	佐竹 吉廣 (寒河江市)
3	入選	「雪景色」	大江町楯山公園	芳賀 和代 (寒河江市)
4	入選	「大朝日夕景」	朝日町八天橋	高橋 隆平 (山形市)
5	入選	「紅花の薫り」	白鷹町荻野地内	橋本 匡章 (東京都)
6	入選	「あさがお咲く」	大江町百目木地内	庄司 光幸 (大江町)

## 春夏秋冬 編集後記

節目の一年を  
若い気持ちで

広報担当になり8度目の春を迎えました。今年度は町制施行60周年で、来年3月には本誌が700号を迎えます。記念の節目を広報担当として記録できるのは幸せなこと。また一年よろしく願います。

春は新たな始まりの季節。6、7頁の「職員体制」にある通り、役場にもたくさんの方のフレッシュマンがやってきました。毎年このコーナーの写真を撮っていますが、最近では新採職員の若さにうらやましさを感じるようになりました。

我が家では今年1月、しばらく壊れたままだった体重計を買い替えました。初のデジタル式です。

最近のものは体重とともに体脂肪や「体年齢」なども計測してくれるんですね。いつも実年齢よりも5歳〜10歳程度若く表示してくれるので、毎日のように乗っています。

この行動自体、年齢を気にするようになった証拠ですが、気持ちだけは新採のように若くありたいものです。仕事もプライベートも……。

佐久間 淳